

## A. 研究目的

自閉症の歴史は、1943年にアメリカの児童精神科医レオ・カナーが11人の子どもたちを「感情的接触の自閉的障害」として報告し、『早期幼児自閉症』と命名したことに始まる。自閉症は、1.対人関係を維持・形成することが困難な社会的相互関係の障害、2.言葉の理解・使用に困難をもつコミュニケーション能力の障害、3.興味・関心・活動のレパートリーが狭く、反復常同的あるいは執着的行動で、特別な物事にこだわり、環境変化への適切な対応ができにくいことが生後36ヶ月までにみられる発達障害と定義づけられている。自閉症の原因は、10～20%は代謝異常症、染色体異常症、結節性硬化症、神経線維腫症などの先天性疾患など既知の基礎疾患であるがメカニズムについては不明である。自閉症発症の頻度は、10,000人あたり4～5人と推測されていたが、近年は概念の変遷があり、アメリカのアトランタ州においては10,000人あたり41～45人と報告されている。

『エンパワーメント』はソーシャルワーク分野においてアメリカでは1980年代、イギリスや日本では1990年代から盛んに用いられるようになり、清水らは、WHOのオタワ憲章において「人々や組織、コミュニティが自分達の生活への統御を獲得する過程である」と定義されていると報告している。これらを要約すると、エンパワーメントは・力をつけていく過程、・力をつけた状態、そして・無力な状態にされた人たちの潜在的可能性・能力、人間としての尊厳を引き戻し、取り戻すことと捉えることができる。すなわち、障害児者あるいはその家族が内発的な力を発揮し、自らの生活を自らコントロールできること、また、できるようになる過程であると捉えることができる。エンパワーメントは普段力をつけていく過程や、力をつけた状態で使われているが、我々は無力な状態にされた人たちの潜在的可能性・能力、人間としての尊厳を引き出し、取り戻すことという意味に注目

し、スポーツ活動バリアフリーの構築を具体化することを目的に本研究を行った。

水中では、垂直、水平そしてそれぞれの間接姿勢における姿勢変換を巧みに行うことができる。このことを活用した障害児者の水泳療育に水中運動を応用する試みが報告されている。平衡感覚とそれを司る筋への負荷が姿勢バランスの基本的な運動能力の習得に有効であると考えられている。これまで障害児者の水泳療育に関して自閉症児者を対象に数多く報告されている。

水中運動の実践が自閉症児の身体意識能力、時間・空間概念の形成や健康増進に関するエンパワメントを向上させるものと仮説立てした。水中運動の実践を通じて諸機能の発達を促し、エンパワメントの向上を図るための参加支援活動に関する実践、プログラムの作成、教室の運営、安全管理、指導マニュアルの作成、指導者の育成等を本研究の目的とした。

## B. 方法

### 1)対象者

自閉症圏の障害をもつ小学1年生から高校1年生までの児童生徒26名を対象とした。保護者も対象者と同様にプールでのプログラムに参加した。

### 2)インフォームドコンセント

対象者の保護者に対してインフォームドコンセントを行った。ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って研究の目的、方法、期待される効果、不利益がないこと、危険性を十分排除した環境にすること、そして救急体制について十分な説明を口頭および書面にて行い、保護者から書面にて同意を得た。

### 3)開催日程

#### ①平成14年度日程

平成14年5月11、18、25日、6月8、15、29日、7月6日の計7回を第1期、10月5日、11月2、9、16、30日、12月6日の計6回を第2

期、平成15年2月1, 8, 15, 22日, 3月1, 8, 15日の計7回を第3期(合計20回)とし、午前10時から正午までおよそ2時間、水中運動教室を展開した。

#### ②平成15年度日程

平成15年4月26日, 5月24日, 6月7日, 28日の計4回を第1期, 7月5日, 26日, 8月9日, 30日, 9月6日, 13日の計6回を第2期, 平成15年10月11日, 11月8日, 22日, 12月6日, 平成16年1月17日, 3月27日の計6回を第3期とし、水中運動教室を計16回実施した。

#### ③平成16年度日程

平成16年4月17日, 5月1日, 15日, 6月19日の計4回を第1期, 7月17日, 8月7日, 21日, 9月4日, 18日の計5回を第2期, 平成16年11月6日, 20日, 12月18日の計3回を第3期, 平成17年1月15日, 2月12日, 26日, 3月12日, 26日の計5回を第4期とし、水中運動教室を計17回実施した。

#### 4)指導及び評価組織

指導体制は、指導者(1名)、補助指導員(7~8名)そして記録評価員(15名)とした。指導者、補助指導員は、名前を記入した水色の帽子を着用することとした。補助指導員は、指導者が指示を出す間、肩まで水に浸かり、対象者が指導者に注目できるように配慮した。サーキットでは、補助指導員が1つずつ持ち場を担当した。グループ活動においては、各グループに1人ずつ補助指導員を配置した。指導者が事前に補助指導員に対してプログラムを提示し、個別にグループを指導するものとした。記録評価員は、プールサイドにて評価及び対象者の安全確保を担った。教室終了後、個々の評価とその日の反省、次回の指導ポイント等を2時間で協議した。

#### C. 平成14年度実践記録

プログラムを資料(平成14年度総括報告書)に示した。実践プログラムをホームページで公開した。第1期では、水慣れ、プログラムの流れの習得を目的とした。準備体操後、自由遊び、課題学習としてサーキットトレーニング、個別活動、グループ活動を行った。休憩後、課題学習としてキック運動、背浮きを行い、最後に水中でダンスを行った。第2期では、個々に課題を設定することを目的とした。前半のサーキットトレーニングまでは第1期と同様に進めた。その後、キック運動を行った。休憩後、集団活動を行い、グループ活動を行った後、水中ダンスを行った。第2期でのグループ活動は個々に課題を設定し活動を行った。第3期では、個々の課題をすべてのプログラムに設定した。

第1期から第3期におけるプログラムのそれぞれの目的について以下に示した。

最初に準備体操を行った。自閉症児は模倣が難しいといわれているため準備体操はモデルをおいた。準備体操時の①手を上げて背伸び、②床を交互に叩く、③ジャンプ、④前屈、閉脚・開脚、⑤指折り、⑥○・×、⑦首のストレッチ、⑧斜めの運動(肩・膝)、⑨片足立ち、手足ブラブラ、といったこれらの動きは全て模倣能力を目的とした。①は身体図形の認知、空間認知、②は交互運動、姿勢づくり、③は姿勢づくり、④は交互運動、⑤は微細な運動、⑥は空間認知、微細な運動、正中交線、⑦は身体図形の認知、⑧は正中交線、⑨は交互運動、姿勢づくり、バランスを目的とした。

自由遊びでは、水感覚を知り、他者(保護者・スタッフ・他児)とコミュニケーションを図ることを目的とした。

課題学習1として、サーキットトレーニングを導入した。図2に示した。プールサイドにあるフラフープに並び、陸上にある滑り台からプールに滑り降りフラフープを潜った。水中にある平均台を歩いて渡った後、リングを潜って拾い、プールサイドにいるスタッフに手渡した。

その後、トンネルをくぐりプールサイドにいるスタッフからボールを3つ受け取り、1つずつゴールに投げた。これを一連の流れとした。

滑り台は姿勢づくり、水・水深に対する恐怖心の除去を、フラフープは潜る、浮くといった姿勢づくりを、平均台は平衡性、位置の把握、リング拾いは目標物の認識、渡す、潜るといった動作の習得を、トンネルは暗所での恐怖心の除去、姿勢づくりを、玉入れは目標物の認識、投げるといった協調運動をそれぞれの目的とした。

グループ活動では集団活動として、手を繋いで歩くプログラムを導入した。これは、他者（保護者・スタッフ・他児）との関わりを目的とした。個別活動として、顔つけ、ボールふきは水に対する恐怖心の除去、息を吐く動作の習得を、だるま浮き、ふし浮きは浮く感覚の習得を、キック運動は足の交互動作の習得、姿勢の維持、進む感覚の習得、背浮きは浮く感覚の習得、視界のない所での恐怖心の除去をそれぞれの目的として行った。

水中ダンスは、水の中でリズムダンスを行った。これは、模倣能力、音楽やリズムに合わせて体を動かし、陸上では困難な姿勢の保持を目的とした。

これら一連のプログラムは、補助指導員5～8名がチェックシートを用い、プールサイドにて評価した。第1期のチェックシートは項目が少なく、評価が主観的になってしまう傾向が認められた。第2期では客観的評価を行えるよう、各項目毎にく自分でできる・できる・できないの3段階で評価した。

評価の一例として、第2期におけるサーキット時の評価を図3に示した。

#### D. 平成15年度 実践記録（第1期）

##### 1) プログラム（資料参照：平成15年度総括報告書）

『水慣れ、プログラムの流れの習得、グループ活動の設定』を目標とした。プログラムの流れとして準備体操、自由遊び、サーキット、キック練習、個別・グループ活動、水中ダンスの順で行った。サーキットは滑り台をすべり水中に入る、フープをくぐる、平均台を渡る、リングを拾う、浮島を渡る、ボールを受ける、ボールを投げるという課題を行った。活動時間は約1時間30分とした。

##### 2) プログラムの目標

自閉症児は模倣を苦手としているため、モデルを1人置いた。全体を通して模倣能力の向上を目的とした。

##### ・準備体操

最初に準備体操を行った。自閉症児は模倣が難しいといわれているため準備体操はモデルをおいた。

- ①手を上げて背伸び
- ②床を交互に叩く
- ③ジャンプ
- ④前屈、閉脚・開脚
- ⑤指折り
- ⑥○・×
- ⑦首のストレッチ
- ⑧斜めの運動（肩・膝）
- ⑨片足立ち、手足ブラブラ
- ⑩深呼吸

これらの動きは全て模倣能力向上を目的とした。

①は身体図形及び空間認知、②は交互運動、姿勢づくり、③は姿勢づくり、④は交互運動、⑤は微細な運動、⑥は空間認知、微細な運動、正中交線、⑦は身体図形の認知、⑧は正中交線、⑨は交互運動、姿勢づくり、バランスを目的とした（資料参照）。

##### ・自由遊び

水の感覚を知り、他者（保護者・スタッフ・他児）とコミュニケーションを図ることを目的とした。

##### ・サーキット

滑り台、フープくぐり、平均台、リング拾いは平成14年度第1期と同じとした。浮島渡りはバランス能の向上を、ボールキャッチ、ゴール入れは、物の認識、受けるという動作、大きいボールを投げる動作の習得を目標とした(資料参照)。

#### ・キック運動

足の交互動作の習得、姿勢の維持、進む感覚の習得、背浮きは浮く感覚の習得、視界のない所での恐怖心の除去をそれぞれの目的として行った。

#### ・グループ・個別活動

対象者をイルカグループとペンギングループに分けた。ペンギングループはボール吹き、ブクブクパーや耳付けなどを行った。これらは、保護者やスタッフとの関わり、水の中で息を吐く動作の習得、水に対する恐怖心の除去を目的とした。加えて、ビート板を正しく持つことを目標としたビート板持ちや、浮く感覚を習得するためにビート板浮きを行った。イルカグループにおいては、さらに細かくグループを2つに分け活動を行った。1グループは浮く感覚を習得するためダルマ浮きやふし浮きを中心に行った。また、ビート板を持つてのキック運動の習得や空間認知、身体意識の向上を目的とするクロールの手の動きを行った。2グループは1グループの内容に加え、2つ以上の動きを組み合わせ、空間認知、身体意識の向上、バランス能力の向上を目的とするクロールの練習を中心に行った。

#### ・水中ダンス

水の中でリズムダンスを行った。これは、模倣能力、音楽やリズムに合わせて体を動かし、陸上では困難な姿勢の保持を目的とした。

#### 3)評価

プログラムは、補助指導員5~8名がチェックシートを用い、プールサイドにて評価した。項目毎に<自分でできる・できる・できない>の3段階で評価した。

#### 4)実践記録

温水プールの水温は  $30.4 \pm 0.5$  (mean  $\pm$  SD) °C、室温は  $29.5 \pm 4.1$  °Cであった。参加した対象者は63人、スタッフは85人であった。個々の実践記録を以下に示した。

#### 対象者A

4月26日:久しぶりの参加だったがプールでしっかりと楽しむことができた。

5月24日:水の中で楽しそうに参加できた。

6月7日:プールの深いほうでもしっかりと楽しめた。

6月29日:サーキットをととても上手に楽しめた。第1期は休まずに参加することができた。

#### 対象者C

4月26日:着替えがととても早くなった。サーキットや板キックなどの課題をしっかりと行うことができた。

5月24日:お友達と一緒に着替えができた。次回からイルカグループで頑張ろう。

6月7日:イルカグループでキック練習を頑張った。

6月29日:第1期は休まずに参加することができた。ビート板浮きは足の力を抜いてきれいに浮くことができた。

#### 対象者F

4月26日:滑り台を一人ですべることができた。

5月24日:今回も滑り台を一人で滑ることができた。リング拾いでは顔をつけることができた。

6月7日:サーキットを一人で上手に行った。

6月29日:第1期は休まずに参加することができた。とても上手に背浮きができた。

#### 対象者G

4月26日:体操をしっかりと頑張った。サーキットを楽しむことができた。

6月7日:イルカグループでキック練習を頑張った。

6月29日:手足を伸ばして、とても上手にビート板キックを行うことができた。

#### 対象者 M

4月26日:お友達とキックやクロールで競争できた。

5月24日:今回もイルカ飛びの見本を上手に行うことができた。

6月7日:クロールの練習に取り組めた。

6月29日:第1期は休まずに参加することができた。1往復、上手にクロールを行うことができた。

#### 対象者 I

4月26日:お友達とキックやクロールで競争できた。スタッフの話をしっかりきいて、行動できた。

5月24日:自由遊びでは背泳ぎを上手に行うことができた。

6月7日:クロールの練習にしっかり取り組むことができた。

6月29日:第1期は休まずに参加することができた。滑り台はスタッフの手を必要とせず、すべることができた。

#### 対象者 J

5月24日:久しぶりの参加だったがプールに入ってしっかりとプログラムに参加した。

6月7日:ビート板持ちをとても上手に行った。

6月29日:滑り台を上手にお尻ですべりおろることができた。

#### 対象者 K

5月24日:滑り台をすべるなどいろんなことに挑戦した。これからも楽しもう。

6月7日:男子更衣室で着替えを一人で行った。

6月29日:滑り台の前で10秒間、待つことができた。サーキットからプログラムに参加できた。

#### 対象者 L

4月26日:ロングビート板では、順番を待ってしっかり練習できた。スタッフが保護者代わりでも落ち着いて行動ができた。

5月24日:プログラムに積極的に参加した。

6月7日:クロールがとても上手に出来るよう

になった。

6月29日:第1期は休まずに参加することができた。クロールの息継ぎの練習に取り組めた。

#### 対象者 M

4月26日:ビート板キックの見本を上手に示した。今年度もプールをしっかりと楽しもう。

5月24日:スタッフの先生をおんぶしたり、関わりをもってしっかりと楽しめた。

6月29日:みんなの見本のキックをととても上手に行った。クロールの練習にもしっかりと取り組むことができた。

#### 対象者 Q

5月24日:久しぶりの参加だったが、水の中でしっかりと楽しめた。

6月7日:サーキットをととても楽しそうに行った。

6月29日:楽しんでプールに参加できた。スタッフといろんなお話をしてコミュニケーションが取れた。

#### 対象者 R

5月24日:プールにも入水でき、サーキットも参加できた。

6月7日:サーキットに参加することができた。

6月29日:プログラムにしっかりと参加できた。

#### 対象者 S

5月24日:ジャンプや潜る時に掛け声をかけて行動できた。

6月7日:クロールの練習を頑張った。

#### 対象者 T

4月26日:深いところでもダンスを上手に踊ることができた。しっかりとプールで遊べた。

5月24日:腰掛けキックではしっかりと足を動かせ、上手にキックを行うことができた。

6月29日:滑り台を上手にお尻で滑りおろることができた。

#### 対象者 U

4月26日:ロングビート板キックは、スタッフをみてしっかりと脚を動かすことができた。今年度もしっかりとプールを楽しもう。

5月24日：リング拾いでは顔つけをして拾うことができた。お友達のビート板の整頓を行った。

6月29日：ビート板をお腹の下に乗せるという工夫をし、一人で浮くことができた。滑り台も、自ら膝を伸ばしてスムーズに滑りおろすことができた。

#### 対象者 V

6月7日：いろいろな泳ぎを覚えたい意欲が感じられた。

6月29日：サーキットの回数をスタッフに聞きに来ることができた。お母さんやスタッフとキックやクロールの練習にしっかりと取り組むことができた。

#### 対象者 b

4月26日：初めての参加だったがプールの中でとてもいい笑顔がみられた。これからしっかりと楽しもう。

5月24日：水の中で楽しそうに参加できた。

6月7日：ビート板もちは肘を伸ばして上手に行った。

#### 対象者 c

4月26日：水中に潜ったり、回ったりをとても上手に行った。初めての参加だったがしっかりと楽しめた。

6月7日：サーキットをとても楽しそうに行った。

6月29日：プールの中で潜るなどしっかりと楽しめた。

#### 対象者 d

5月24日：初めての参加だったがしっかりと楽しめた。次回からイルカグループで頑張ろう。

#### 対象者 e

4月26日：フラフープくぐりや滑り台をとても上手行うことができた。これからはしっかりとプールを楽しみもう。

5月24日：ボールを上手に吹くことができた。

6月29日：深いプールを一人で歩くことができた。更衣の方も、水着を見せると一人で着替えを行った。

#### 対象者 g

4月26日：初めての参加だったが周りを見てきちんと行動が取れた。これからはプールを楽しもう。

6月7日：イルカグループで泳ぎの練習を頑張った。

6月29日：ロングビート板キックはしっかりとキックを打てた。クロールの練習にも取り組むことができた。

#### 対象者 h

6月7日：初めての参加でしたがしっかりと楽しめた。

6月29日：顔付け、潜りっこをととても上手に行った。お母さんやスタッフの上手に足の間くぐりを行った。

#### 対象者 i

5月24日：初めての参加だったが、しっかりと楽しめた。

6月7日：サーキットをととても楽しそうに行うことができた。

#### E. 平成15年度 実践記録 (第2期)

1)プログラム (資料参照：平成15年度総括報告書)

『グループ (個別) 活動の課題設定』を目標とした。また、7月5日はボールプールプログラムを行った。プログラムは、準備体操、自由遊び、サーキット、キック練習、グループ (個別) 活動、水中ダンスの順で行った。サーキットは平成15年度第1期と同じ内容とした。9月13日は、自由遊びまでのプログラムを行うことができた。

2)プログラムの目標

- ・準備体操
- ・自由遊び
- ・サーキット
- ・キック運動

以上4項目は平成15年度第1期と同じとした。

## ・グループ・個別活動

7月5日はボールプールを行った。これは、ボールとプールの感覚を楽しむことに加え、保護者とは離れて、対象者、スタッフとの関わりを持つことを目的とした。ペンギングループは8月9日よりボール吹きを排除し、ビート板持ちやキック練習の時間を長く設けた。イルカグループは、さらに細かくグループを設定し、4グループに分けた。これにより、それぞれのグループにあった活動が行えるようになった。1グループは、平成15年度第1期と同じとした。2グループは、平成15年度第1期の内容に加え、さらに動きを組み合わせることを目標とした呼吸付のクロールの練習も行った。新たに設定した3、4グループは、顔付け、ビート板持ち、ビート板キック、背浮きなど対象者に合わせた活動を行うことを目標とした。

## ・水中ダンス

平成15年度第1期と同じとした。

## 3)評価

平成15年度第1期と同じとした(資料参照：平成15年度総括報告書)。

## 4)実践記録

温水プールの水温は  $30.5 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 、室温は  $30.5 \pm 2.3^{\circ}\text{C}$  であった。参加した対象者は98人、スタッフは129人であった。個々の実践記録を以下に示した。

### 対象者C

7月5日：ボールプールはとても楽しそうにお友達とじゃんけんをして、しっかりと遊ぶことができた。

8月30日：プログラム中や着替え中にスタッフとコミュニケーションがしっかりと取れた。

### 対象者F

7月5日：浮島に乗って、気持ちよさそうに浮かぶことができた。

7月26日：お尻をつけて滑り台をすべることができた。

8月30日：スタッフを認識できた。水の中での行動範囲がとても広がった。

9月6日：スタッフと一緒にプログラムをしっかりと取り組めた。グループ活動をよく頑張った。

### 対象者G

7月5日：ボールプールではとても楽しみ、しっかりと遊ぶことができた。

7月26日：途中からの参加だったが、体操をしっかりと行った。

8月9日：いつも以上に積極的に課題がこなせた。滑り台の後のフープまでキックで上手に進むことができた。

8月30日：けのびの姿勢がとてもよくなった。

### 対象者M

7月5日：ボールプールでは、水面を叩いたり、両手を左右に動かしたりして、ボールが広がる様子をとても楽しんだ。

8月9日：ロングビート板キックではお友達としっかりとキックが打てた。クロールの練習も頑張って取り組めた。

8月30日：泳ぎを忘れてしまったことをスタッフに伝えることができた。少しずついいので思い出しながら練習していこう。

9月6日：クロールの足が沈んでしまうが、しっかりと手をかくことができた。

### 対象者I

7月5日：プールの中で前転を大変上手に行った。ボールプールでは、いろんな色のボールを集めて楽しんだ。

7月26日：目印を上手に回ることができた。呼吸付きのクロールの練習に取り組むことができた。

8月9日：滑り台を一人ですべることができた。クロールは右呼吸をして上手に泳げた。

8月30日：ダンスの時、お友達に最前列を譲ってあげた。

9月6日：クロール、背泳ぎなどお父さんとして練習を行った。

#### 対象者 J

7月5日：最初から深いプールの方に行くことができた。ボールプールでは、外に出たボールを戻したり、ボール吹きをしたり、ボールを持って浮島に乗ったりとしっかり遊ぶことができた。

7月26日：プログラムの流れをしっかりと把握できており、ビート板持ちやキックの練習にも取り組めた。

8月30日：自分で脱いだ服をたたんで、一人で着替えを行った。

9月6日：滑り台からフープまで一人で歩いて行くことができた。スタッフと一緒に楽しめた。

#### 対象者 K

7月5日：滑り台の上で順番を待つことができた。ボールプールではジャンプするなど楽しんでいった。

7月26日：滑り台をカウントに合わせて滑り降りることができた。

8月30日：自由遊びの時に、上手にビート板を持ってキックを行った。

9月6日：サーキットが得意で、順番をしっかりと守ることができた。ビート板キックに挑戦しており、上手に交互キックが打てた。

#### 対象者 L

7月5日：自らスタッフの手を取って泳ぎの練習を上手に行った。

7月26日：呼吸付きのクロールの練習に取り組めた。クロールのタイミングがとてよくなった。

8月9日：クロールの練習をとて積極的にを行った。呼吸付きのクロールの練習もしっかり取り組めた。

8月30日：朝は調子が悪かったようだが、プログラムは完璧にこなすことができた。クロールの練習にも積極的に取り組めた。

9月6日：人数の関係でスタッフをつけることができなかったが、ひとりでプログラムに参加できた。

#### 対象者 M

7月5日：男性のスタッフとボールの投げ合いをしてしっかりと楽しめた。

8月9日：ロングビート板キックの2本目はとても大きなキックが打てた。呼吸の練習にもしっかりと取り組めた。

#### 対象者 Q

7月5日：スタッフをよく見て体操を行った。ボールプールでは楽しそうにしっかりと遊ぶことができた。

8月9日：ビート板キックの練習を頑張った。ジュースを飲んだ後『ごちそうさま』が言えた。

8月30日：ロングビート板キック2回目の帰りはしっかりとビート板に乗ることができた。

9月6日：背浮きをリラックスして上手に行った。

#### 対象者 R

7月5日：リング拾いでは、自分でスタッフにリングを手渡しすることができた。ボールプールではジャンプするなど楽しんでいった。

7月26日：タッチの課題を一人で行うことができた。ビート板をとて上手に持つことができた。

8月9日：サーキットの浮島にとて興味をもった。ゆっくりでいいので浮島に挑戦してみよう。ビート板押し、浮きをとて上手に行った。

8月30日：滑り台、浮島を一人で上手に行うことができた。休憩時間に腰掛けキックを上手に行った。

9月6日：腰掛けキックを上手に行った。サーキットではフープ後に顔付けすることができた。ロングビート板キックではしっかりとビート板に乗ることができた。

#### 対象者 S

8月9日：クロールの手を大きく回しながら上手に行った。

#### 対象者 T

7月5日：ボールプールでは水の中を歩き回るなど、しっかりと楽しめた。

8月9日：スタッフの前で顔つけができた。背浮きも少しずつチャレンジできた。

9月6日：サーキットでのフープくぐりのあと、顔をつけることができた。

#### 対象者 U

7月5日：ボールプールでは、水しぶきをたてる、動きを見る、ボールを持って歩く、ボールを触るなど、感触をしっかりと楽しめた。

7月26日：サーキットは一番でのスタートでしたが大変上手に行った。休憩の時にゴーグルをつけることができた。

8月9日：一人で上手に浮くことができた。リングも顔つけをして取ることができた。

8月30日：サーキットは自信を持って行った。リング拾いでは、お友達を待っている間、水をかけずに待つことができた。

9月6日：後半の個別練習はスタッフと一緒に、顔付け、けのび、ビート板キックに取り組めた。

#### 対象者 a

8月9日：初めての参加だったがしっかり課題に参加できた。クロールもとても上手に泳ぐことができた。

8月30日：けのびの姿勢をととても上手に行った。サーキットも楽しそうに行った。

#### 対象者 b

7月5日：ボールプールではとても楽しみ、しっかりと遊ぶことができた。

8月9日：脱いだ服を自分できちんとたたむことができた。積極的にプログラムに参加した。

8月30日：ビート板キックの練習をととても楽しそうに行った。

9月6日：1, 2, 3, 4, 5のタイミングで上手に滑り台を滑ることができた。

#### 対象者 c

7月5日：ボールプールでは、潜ったりジャンプしたりしっかりと楽しめた。

#### 対象者 d

7月5日：ゴーグルをつけて水の中が見えることをとても喜んだ。ボールプールでは、ジャン

プをするなど、しっかりと楽しめた。

8月9日：グループ練習の時は名前を呼ばれるまで待つことができた。ビート板キックをととても上手に行った。

8月30日：けのびの姿勢をととても上手に行った。

#### 対象者 e

7月5日：声掛けで着替えができた。気持ちよさそうに浮島に乗って浮くことができた。

7月26日：途中からの参加だったがプログラムにしっかりとのれていた。ビート板を持つてのキックも足を動かさせた。

#### 対象者 f

8月30日：初めての参加だったが、プールの中でとても楽しそうだった。腰掛けキックでは足を交互に上手に動かさせた。

#### 対象者 g

7月26日：けのびの姿勢が大変上手で、元気いっぱいプログラムに取り組めた。

8月9日：泳ぐことがとても楽しそう。1, 2, 3 パーのキックをタイミングよく行った。クロールも大変上手に泳ぐことができた。

9月6日：けのびの姿勢をととても上手に行った。キックやクロールの練習にもしっかりと取り組めた。

#### 対象者 h

7月5日：ロングビート板のキックを上手に行った。ボールプールでは潜ったり、水をかけたりと楽しめた。

8月30日：ロングビート板のキックを行うことができた。

#### 対象者 i

7月5日：ボールプールでは、ボールの中を移動するのが大変楽しそうだった。

7月26日：ビート板を持つてのキックをととても上手に行った。

8月9日：深いほうのプールもつま先でとても上手に歩くことができた。背浮きも気持ちよさそうに行った。

9月6日：背浮きを気持ちよさそうに上手に行

った。

#### 対象者

7月26日：滑り台に興味を持った。これからも  
しっかりプールで楽しもう。

8月9日：サーキットのフープは自分でくぐる  
ことができた。プールも一人で上がることが  
できた。プールの中の歩行も一人で行った。

8月30日：フープくぐりを上手に行った。顔付  
けも一人で行うことができた。

#### F. 平成15年度 実践記録 (第3期)

##### 1) プログラム (資料参照：平成15年度総括報告書)

『グループ (個別) 活動の課題設定』を目標と  
した。プログラムの流れとして準備体操、自由  
遊び、サーキット、平泳ぎの手の練習、グルー  
プ活動、水中ダンスの順で行った。サーキット  
は、11月22日から平均台をL字に置いた。

##### 2) プログラムの目標

###### ・準備体操

平成15年度第1期と同じとした。

###### ・自由遊び

平成15年度第1期と同じとした。

###### ・サーキット

平成15年度第1期と同じとした。平均台にお  
いては、L字に置いたことで、向きの把握を目  
標にした (資料参照)。

###### ・平泳ぎの手の練習

手の平を外に向ける、腕を左右に大きく広げる、  
胸の前で手を合わせる、腕を前に伸ばすという  
左右対象の動きの習得を目標とした。

###### ・グループ・個別活動

ペンギングループは平成15年度第2期と同じ  
とした。加えて、恐怖心の除去、浮く姿勢作り  
を目標としたロングビート板に乗っての背浮き  
を行った。イルカグループは4グループとも平  
成15年度第2期と同じとした。1グループはコ  
ースを移動して活動を行ったため環境の変化に

対応することを目標に加えた。

###### ・水中ダンス

平成15年度第1期と同じとした。

##### 3) 評価

平成15年度第1期と同じとした (資料参照)。

##### 4) 実践記録

温水プールの水温は  $30.3 \pm 0.6^\circ\text{C}$ 、室温は  $31.4 \pm 1.9^\circ\text{C}$  であった。参加した対象者の延べ人数は  
43人、スタッフの延べ人数は101人であった。  
以下対象者毎の記録を示した。個々の実践記録  
を以下に示した。

#### 対象者 A

11月8日：背浮きを大変上手に行った。ビート  
板も継続して持つことができおり、キックも  
しっかりと打つことができた。

#### 対象者 C

10月11日：平泳ぎの手の練習を保護者と一緒  
にしっかりと行った。

11月22日：平泳ぎの手の練習を上手に行った。  
お友達とビート板キック競争ができた。

12月6日：ウォーターボーイズの真似を上手に  
行った。着替えがとても早くできた。

#### 対象者 F

10月11日：滑り台を自分ですべることができ  
た。グループ練習ではビート板を上手に持って  
練習を行った。

11月8日：自分なりに滑り台の滑り方を習得で  
きた。ロングビート板に乗っての背浮きは一人  
で行った。

11月22日：サーキットでのリング拾いはしっ  
かり潜って拾うことができた。顔付けや耳付け  
も上手に行った。

12月6日：第3期は休むことなく参加できた。  
保護者と一緒にグループでの活動をしっかりと  
行った。

#### 対象者 G

10月11日：平泳ぎの手の練習はお友達を見な  
がら練習できた。

11月8日：休まずプールを楽しみに参加した。水中と同じようにプールサイドでの活動も楽しくできるようになる。

11月22日：「アン・パン・マン・だー」のリズムに合わせて上手に平泳ぎの手の練習を行った。お友達にビート板キックの競争しようと誘うことができた。

12月6日：スタッフの指示をしっかりと理解できた。グループでの課題も取り組めた。第3期は休むことなく参加できた。

#### 対象者 M

10月11日：平泳ぎの手の練習をスムーズにこなした。グループ練習もお友達と一緒にしっかりと練習できた。

12月6日：平泳ぎの手を1, 2, 3のリズムで上手に行った。グループでもスタッフの指示を聞いてしっかりと取り組めた。

#### 対象者 I

10月11日：平泳ぎの手の練習を保護者とリズムに合わせて練習できた。

11月8日：キックがとても上手に打っておりクロールの姿勢もしっかり伸ばすことができた。呼吸のタイミングをしっかりと覚えていこう。

11月22日：片手プルの練習では上手に手を回し、顔も横に向けることができた。手を回すことに集中するとキックが小さくなってしまいが、刺激を与えると上手にキックを打つことができた。次回は、けのびの練習を増やし、姿勢を維持できるように練習していこう。

12月6日：平泳ぎの手とバタ足、呼吸を組み合わせ上手に泳ぐことができた。第3期は休むことなく参加できた。

#### 対象者 L

10月11日：横向きキックの練習をして、顔が上手に横向きに上げられるようになった。

11月8日：背浮きでのキックは膝が伸びてとても上手に打つことができた。クロールのキックも膝が伸びるように、布団の上でキックの練習をしよう。

11月22日：グループ練習では、時間いっぱいしっかりと練習できた。背浮きのキックはとても柔らかいキックが打てた。クロールも足・手・呼吸と動作が複雑になっているが、しっかりと手を回し、呼吸も横に向くことができた。次回は、けのびの練習を増やし、姿勢を維持できるように練習していこう。

#### 対象者 Q

10月11日：補助ありで、背浮きを5秒間頑張った。

#### 対象者 R

10月11日：スタッフが保護者代わりだったが、プログラムに自分から参加できた。平泳ぎの手の練習も周りをよく見て挑戦できた。

#### 対象者 T

11月22日：サーキットでのリング拾いはゴーグルをつけた状態でもぐって拾うことができた。背浮きも背中に補助があるととても上手に浮くことができた。

12月6日：ゴーグルをつけて顔付けを上手に行った。ロングビート板に乗っての背浮きもとても上手に行った。

#### 対象者 U

10月11日：落ち着いてスタッフの指示を聞いた。ゴーグルをつけてグループ活動に参加できた。

11月8日：ゴーグルをつけて、下向きで潜ることができた。ゴーグルをつけると水の中で目をあけられることが確認できた。

11月22日：ビート板を持って、顔をつけることができた。サーキットでのリング拾いもリングの位置を確認して拾うことができた。

12月6日：ビート板をお腹の下に入れた状態で、手を上手に動かすことができた。ダンスも歌を歌いながら、上手に踊ることができた。自分でゴーグルの位置を直す事ができた。有用性が少しずつ理解できてきた。第3期は休むことなく参加できた。

#### 対象者 b

10月11日：保護者と一緒にビート板キックの練習に取り組めた。

11月22日：ビート板を持って背浮きを上手に行うことができた。

12月6日：水に入ることがとても楽しく自らしっかりと活動できた。課題も少しずつ参加できた。この調子で第4期も楽しもう。

#### 対象者 d

11月8日：平泳ぎの手やクロールはスタッフをしっかりと見て練習できた。

12月6日：目をつぶって平均台を渡ることができた。グループ練習もスタッフの指示を聞いてしっかりと取り組めた。

#### 対象者 e

10月11日：スタッフが保護者代わりだったが、プログラムによって練習できた。周りの状況をしっかりとみることができた。

#### 対象者 g

11月8日：グループ活動も課題をしっかりとこなせた。クロールも上手に泳ぐことができた。

12月6日：クロールの手を上手にまわして、泳ぐことができた。スタッフとしっかりとコミュニケーションを取りながらプログラムに参加できた。

#### 対象者 h

10月11日：ビート板を持ってキックを上手に行うことができた。

11月8日：グループ練習のビート板キックや背浮きは保護者として練習できた。

11月22日：平泳ぎの手の練習をとっても上手に行った。

12月6日：グループ練習ではスタッフや保護者と一緒にとしっかりと練習できた。ロングビート板に乗っての背浮きも気持ちよさそうに行った。第3期は休むことなく参加できた。

#### 対象者 i

10月11日：途中少し崩れてしまったが、後半のグループ活動は頑張って練習できた。背浮き

も上手に行うことができた。

11月8日：しっかりとプログラムによって活動できた。平泳ぎの手の練習は教室終了後も上手に行うことができた。

#### G. 平成16年度 実践記録 (第1期)

##### 1) プログラム (資料参照)

『水慣れ、プログラムの流れの習得、グループ活動の設定』を目標とした。プログラムの流れとして準備体操、自由遊び、サーキット、平泳ぎの手の練習、個別・グループ活動、水中ダンスの順で行った。サーキットは滑り台をすべり水中に入る、フープをくぐる、平均台を渡る、リングを拾う、浮島を渡る、ボールを受ける、ボールを投げるという課題を行った。活動時間は約1時間30分とした。

##### 2) プログラムの目標

自閉症児は模倣を苦手としているため、モデルを1人置いた。全体を通して模倣能力の向上を目的とした。

##### ・準備体操

最初に準備体操を行った。自閉症児は模倣が難しいといわれているため準備体操はモデルをおいた。

- ①手を上げて背伸び
- ②床を交互に叩く
- ③ジャンプ
- ④前屈、閉脚・開脚
- ⑤指折り
- ⑥○・×
- ⑦首のストレッチ
- ⑧斜めの運動 (肩・膝)
- ⑨片足立ち、手足ブラブラ
- ⑩深呼吸

これらの動きは全て模倣能力向上を目的とした。①は身体図形及び空間認知、②は交互運動、姿勢づくり、③は姿勢づくり、④は交互運動、⑤は微細な運動、⑥は空間認知、微細な運動、

正中交線, ⑦は身体図形の認知, ⑧は正中交線, ⑨は交互運動, 姿勢づくり, バランスを目的とした (資料参照).

・自由遊び

水の感覚を知り, 他者 (保護者・スタッフ・他児) とコミュニケーションを図ることを目的とした.

・サーキット

滑り台, フープくぐり, 平均台, リング拾いは平成 14 年度第 1 期と同じとした. 浮島渡りはバランス能の向上を, ボールキャッチ, ゴール入れは, 物の認識, 受けるという動作, 大きいボールを投げる動作の習得を目標とした (資料参照).

・平泳ぎの手

足の交互動作の習得, 姿勢の維持, 進む感覚の習得, 背浮きは浮く感覚の習得, 視界のない所での恐怖心の除去をそれぞれの目的として行った.

・グループ・個別活動

対象者をイルカグループとペンギングループに分けた. ペンギングループはボール吹き, ブクブクパーや耳付けなどを行った. これらは, 保護者やスタッフとの関わり, 水の中で息を吐く動作の習得, 水に対する恐怖心の除去を目的とした. 加えて, ビート板を正しく持つことを目標としたビート板持ちや, 浮く感覚を習得するためにビート板浮きを行った. イルカグループにおいては, さらに細かくグループを 2 つに分け活動を行った. 1 グループは浮く感覚を習得するためダルマ浮きやけのびを中心に行った. また, ビート板を持つてのキック運動の習得や空間認知, 身体意識の向上を目的とするクロールの手の動きを行った. 2 グループは 1 グループの内容に加え, 2 つ以上の動きを組み合わせ, 空間認知, 身体意識の向上, バランス能力の向上を目的とするクロールの練習を中心に行った.

・水中ダンス

水の中でリズムダンスを行った. これは, 模

倣能力, 音楽やリズムに合わせて体を動かし, 陸上では困難な姿勢の保持を目的とした.

3) 評価

プログラムは, 記録評価員 5~8 名がチェックシートを用い, プールサイドにて評価した. 項目毎に<自分でできる・できる・できない>の 3 段階で評価した.

4) 実践記録

温水プールの水温は  $30.2 \pm 0.4$  (mean  $\pm$  SD) °C であった. 参加した対象者は 61 人, スタッフは 97 人であった. 個々の実践記録を以下に示した.

①平成 16 年 4 月 17 日

個別分析

A 児: スタッフの指示が入りにくい, 父親の指示は入るから父親を介する指導を行っていく.

B 児: 色彩の興味が, 青色から赤色へ変化した.

C 児: 平泳ぎの手の練習が水中でも上手にできるようになった.

D 児: 今までは, 男性のスタッフを嫌がっていたが, 男性のスタッフが対応しても嫌がらなくなった.

E 児: 目線が合うようになった.

F 児: 母親から新学年になり学校では不安定であると報告があったが, 教室中はいつもと変わらずに参加できていた.

G 児: 久しぶりの水泳教室の参加だったが, スムーズに課題に取り組んでいた.

H 児: グループ別課題は, 次回からイルカグループに昇進させる.

I 児: 補助なしで着替えることができるようになった.

②平成 16 年 5 月 1 日

個別分析

A 児: プログラムに対して見通しを持って取り組んでいるように感じられた.

B 児: フラフープの時に, 鼻まで水につけることができた.

C 児: 母親から離れてプログラムに参加するこ

とができていない。

D 児：得意な課題には取り組むが、苦手な課題は取り組まない。

E 児：背浮きに対して恐怖感を持っているから、補助の仕方を確認した。

F 児：リング課題で顔付けをすることができた。

G 児：教室前のビデオ鑑賞のときに、他児とコミュニケーションをとることができていたが、プールでは関わりを持っていなかった。

H 児：暴言が多い。

I 児：平泳ぎの手が反対であることに自ら気づき修正できていた。

J 児：トイレに行く回数が多かった。→プログラムに集中できていない。

③平成 16 年 5 月 15 日

個別分析

A 児：平泳ぎの手の練習を浮いた状態で行うことができていた。今後は、バタ足をしながらの平泳ぎの手を指導課題とする。

B 児：サーキットの順番が来るまでに時間が長く集中力が切れてしまった。しかし、その後崩れることはなかった。

C 児：お気に入りのスリッパを他児が履いてしまった。それが原因でパニックを起こした。

D 児：母親から離れスタッフと一緒に課題に取り組むことができた。

E 児：指示（声かけ）が無ければ、課題に取り組むことができない。視覚的なアプローチが必要である。

F 児：あるスタッフが欠席していることを認識していた。

G 児：強いキックが打てるようになった。

④平成 16 年 6 月 19 日

個別分析

A 児：準備体操をあまりしていない。スタッフが前に立ち準備体操をするように促す。

B 児：受付時に出席カードを忘れてしまい泣いていたが、教室は楽しそうに取り組んでいた。

C 児：普段は自発的な行動があまり見られない

が、ボールプールではボールをスタッフに投げなどの自発的な行動があった。

D 児：父親と離れ、スタッフと課題に取り組んだり、一人で遊ぶ時間が多かった。

E 児：とても興奮しており、プールの中からプールサイドへ 8 回も走り出し、未遂も 7 回あった。

F 児：他児のおでこを叩いた。（対象者にとっては友情の証である）

G 児：他児が久しぶりに来たことに対して喜んでいた。

⑤平成 16 年 4 月 17 日

全体分析

・準備体操を実施方法の検討。

現状では、準備体操に十分スペースを確保できていない。対象者を互い違いに配置することで対応することを確認した。

・時間配分の再確認。

対象者の人数によって、時間配分の微調整が必要であることを確認した。自由時間、平泳ぎの手の練習時に調整することを確認した。

⑥平成 16 年 5 月 1 日

全体分析

・プールでの防寒対策について。

寒さを訴える対象者やふるえている対象者がいる。現状での防寒対策（窓を閉める）以上が必要なことを確認した。しかし、具体的な対策は今後の検討が必要である。

・教室における安全管理。

管理室の進入し、電気機器を触る対象者がいる。扉を必ず閉めることとプールから電気機器が見えないように留意することを確認した。

⑦平成 16 年 5 月 15 日

全体分析

・トイレ休憩時の混雑について。

プールには、男女とも便器が一つしかないため、休憩時には混雑してしまう。休憩時間を対象者が揃うまで待つことを確認した。

・プール環境における安全管理について。

プールサイドはすべりやすいため、対象者が転倒する恐れがある。対象者が走らないようにスタッフが留意する。

⑧平成16年6月19日

全体分析

・ボールプールの実施方法について。

現状のプログラムでは、ボールプールは自由遊びであるが、ゲームなどを取り入れると対象者が今以上に興味を示すのではないか？

・スタッフの配置について。

スタッフの参加人数が確保できない時にどのポジションを削るのかを検討した。

H. 平成16年度 実践記録 (第2期)

1)プログラム (資料参照)

『グループ (個別) 活動の課題設定』を目標とした。プログラムは、準備体操、自由遊び、サーキット、平泳ぎの手の練習、グループ (個別) 活動、水中ダンスの順で行った。サーキットは平成16年度第1期と同じ内容とした。

2)プログラムの目標

- ・準備体操
- ・自由遊び
- ・サーキット
- ・平泳ぎの手の練習

以上4項目は平成16年度第1期と同じとした。

・グループ・個別活動

イルカグループは、さらに細かくグループを設定し、3グループに分けた。これにより、それぞれのグループにあった活動が行えるようになった。1グループは、平成16年度第1期と同じとした。2グループは、平成16年度第1期の内容に加え、さらに動きを組み合わせることを目標とした呼吸付のクロールの練習も行った。新たに設定した3グループは、顔付け、ビート板持ち、ビート板キック、背浮きなど対象者に合わせた活動を行うことを目標とした。

・水中ダンス

平成16年度第1期と同じとした。

3)評価

平成16年度第1期と同じとした(資料参照)。

4)実践記録

温水プールの水温は  $30.5 \pm 0.9^{\circ}\text{C}$  であった。

参加した対象者は76人、スタッフは105人であった。個々の実践記録を以下に示した。

①平成16年7月17日

個別分析

A児：背浮きと口まで水に浸けることができた。

B児：遅刻した事を反省していた。

C児：咳をしている他児に対して「大丈夫？」や手助けをしてくれたスタッフに対して「ありがとう」と言えた。

D児：乱暴な言葉使いをしていた。

E児：プールに跳びこみをして入った。危険であるので、しっかり注意する必要がある。

F児：以前に比べ、準備体操をしっかり行えるようになった。

②平成16年8月7日

個別分析

A児：課題に対して、一生懸命取り組むことができていた。

B児：サーキットでの滑り台に対して恐怖感を持っており、順番を待つことができない。

C児：テレビにイタズラをしていたが、他児の「やめて」の声でやめることができた。

D児：初めて母親との入水だったため、明るく落ち着いて課題に取り組むことができていた。

E児：駄目と分かっていることをする。→スタッフの注目を浴びようとしているのでは？

F児：更衣室で誰かがいると着替えることができない。→対象者が更衣する前に一人で着替える時間を作る。

③平成16年8月21日

個別分析

A児：久しぶりの教室の参加だったから、課題に対して集中できていなく、持続性も無かった。

B児：スタッフや他児に対して興味を示すよう

になった。

C児：教室の最中に父親に怒られ、その後は元気が無かった。

D児：自由時間は、サーフボーダーの真似をし、ずっと波乗りのように浮いていた。

E児：顔つけが2回だけだったができた。

F児：次回からグループ別課題をグループからペンギンイルカグループに昇級することを確認した。

G児：スタッフとは、コミュニケーションをとることができています。今後は、他児とコミュニケーションがとれるようにアプローチしていく。

④平成16年9月4日

個別分析

A児：サーキットの滑り台を滑ることができないが、対象者が通っている養護学校では時間をかければ滑れた。このことから、自由時間を使い時間をかけて対応することを確認した。

B児：クロールの泳力は、確実にアップしている。

C児：来る途中にヘリコプターが通り、ヘリコプターの音に興奮していたが、プールに入ったら、落ち着いていた。

D児：サーキットの平均台をスタッフの補助なしでも落ちずに渡ることができた。

⑤平成16年9月18日

個別分析

A児：平泳ぎの手の練習を浮いた（スタッフの補助あり）状態でできるようになった。

B児：工事の音が気になっていた。以前では崩れていたが、今回はプログラムに参加できていた。

C児：ボールプールの時に他児にボールを投げられ、仕返しにボールをぶつけた。

D児：父親と一緒に入水すると、課題に取り組むよりも遊びが優先になっている。

E児：プールに飛び込みをした。→大変危険であるため注意する。

⑥平成16年7月17日

全体分析

・プールの安全管理について。

プールサイドはすべりやすいため、対象者が転倒する恐れがあることを再確認し、対象者が走らないように声かけを徹底すること確認した。

・器具の管理について。

対象者がテレビやビデオなどをイタズラするため、イタズラをしないように徹底することを確認した。

・対象者の人数増加に伴う安全管理について。

暑い季節になり対象者の人数も多くなった。そのため、課題を行うときに泳ぐためのスペースが確保できないことや衝突しそうになる等の問題点を検討した。泳ぐ順番を決めること、衝突を避けるために声かけをすることを再確認した。

⑦平成16年8月7日

全体分析

・準備体操の実施方法について。

5月1日から準備体操に十分スペースを確保するために対象者を互い違いに配置しているが、まだまだ徹底されていない。また、保護者も互い違いに配置しているためにスペースの確保が十分ではない。→今後は、対象者のみを互い違いに配置をすることおよび保護者は対象者の補助のみとしスペースを確保することを確認した。

⑧平成16年8月21日

全体分析

・サーキットにおける安全管理について。

滑り台の上に一度立ってから座る対象者が多い。滑り台は、水により滑りやすいため、転倒の恐れがある。→滑り台を担当するスタッフが声かけを徹底することを確認した。

・受付時の混雑の解消について。

受付時間終了間際は対象者が一斉に来るため、対応するのが難しい。→ロッカーの鍵を更衣する直前に渡すことで対応することを確認した。

⑨平成16年9月4日

## 全体分析

- ・保護者の接し方について。

保護者と対象者の距離が近過ぎるため、スタッフとコミュニケーションがとりにくい対象者もいる。→保護者と離れても平気な対象者は、なるべくスタッフと関わりを持てるように声かけを行うことを確認した。

- ・プログラムのメリハリについて。

現在は、説明をプールサイドにあげて行っている。これから、冬季になり防寒対策を考慮するとプールサイドではなくプールの中で説明をした方がよいのではと意見があった。しかしながら、対象者にプログラムのスタートおよびストップを理解させる必要があることから、現行の通りプールサイドに対象者をあげ説明することを確認した。

⑩平成16年9月18日

## 全体分析

- ・ボールプールにおける安全対策について。

ボールプールは、ボールで水中やプールの底が見えないため、赤台（水位を調節するための台）の一段の部分と二段の部分の境目が分からずに危ない。→次回が境目にスタッフを配置することによって危険を回避することを確認した。

- ・プール環境の安全対策について。

赤台（水位を調節するための台）が外れやすく危険である。対策として、金具等を使い赤台を固定する案があったが、金具も外れやすく危険性が高まることから、今まで通りに水中および陸上のスタッフが外れをチェックしていくことを確認した。

## I. 平成16年度 実践記録（第3期）

### 1)プログラム（資料参照）

『グループ（個別）活動の課題設定』を目標とした。プログラムの流れとして準備体操、自由遊び、サーキット、平泳ぎの手の練習、グループ活動、水中ダンスの順で行った。

### 2)プログラムの目標

- ・準備体操

平成16年度第1期と同じとした。

- ・自由遊び

平成16年度第1期と同じとした。

- ・サーキット

平成16年度第1期と同じとした。

- ・平泳ぎの手の練習

手の平を外に向ける、腕を左右に大きく広げる、胸の前で手を合わせる、腕を前に伸ばすという左右対象の動きの習得を目標とした。

- ・グループ・個別活動

ペンギングループは平成16年度第2期と同じとした。加えて、恐怖心の除去、浮く姿勢作りを目標としたロングビート板に乗っての背浮きを行った。イルカグループは3グループとも平成16年度第2期と同じとした。1グループはコースを移動して活動を行ったため環境の変化に対応することを目標に加えた。

- ・水中ダンス

平成16年度第1期と同じとした。

### 3)評価

平成16年度第1期と同じとした（資料参照）。

### 4)実践記録

温水プールの水温は  $30.7 \pm 0.3^{\circ}\text{C}$  であった。参加した対象者の延べ人数は29人、スタッフの延べ人数は70人であった。以下対象者毎の記録を示した。個々の実践記録を以下に示した。

①平成16年11月6日

### 個別分析

A児：携帯電話に興味を持っており、他児の保護者やスタッフが携帯電話を持っていないかポケットやバックの中を探していた。

B児：課題に持続して取り組むことが難しい。

C児：水中ダンスの時にモデルを見ないで上手に踊ることができていました。

D児：他児がふざけているのを注意した。

E児：ゴーグルを着けることと、潜ることは同一であると理解されている。

F 児：プールサイドで2回おしっこをした。

G 児：サーキットで待つのが嫌で崩れた。

②平成16年11月20日

個別分析

A 児：イルカⅡへ昇進することを確認した。

B 児：サーキットの滑り台、平均台を補助なしでできた。

C 児：父親との距離が近過ぎる（対象者が小6の女兒であるために）。→スタッフが上手く間に入ることを確認した。

D 児：スタッフの真似を他のスタッフに見せてくれた。

E 児：更衣室でスタッフの補助なしで着替えることができました。

F 児：サーキットの滑り台の上で順番を待つことが難しい。→下で待たせることを確認した。

G 児：顔付けができるようになってから、できる課題が多くなった。対象者や保護者も楽しそうに参加できている。

H 児：課題に対して、持続して取り組めるようになった。

I 児：バタ足をするとき、両足キックになっていた。

③平成16年12月18日

個別分析

A 児：久しぶりの教室への参加でしたが、スムーズにプログラムに参加できていた。

B 児：行動のエリアが狭く赤台（水位調節するための台）が二段の部分でしか活動をしていない。

C 児：スタッフが話しかけても反応を示さない。

D 児：他児に対して、「危ない」と危険を教えあげることができた。

E 児：教室中に父親との過ごす時間が長く、スタッフや他児との関わりが希薄である。

F 児：一回飛び込みをして入水した。スタッフと飛び込みをしないと約束をしてからは飛び込みをしなかった。

G 児：ボールプールでの浮き島が大好きで、独

占していた。他児が来るのを嫌がっていた。

H 児：スタッフの真似をしていた。

④平成16年11月6日

全体分析

・プール環境における防寒対策について。

プールの室温も下がり、教室中に寒さを訴える対象者がいた。現行の防寒対策（窓を閉める）に加え、プールの送風を停止することによって防寒対策になるか否かを次回確かめることを確認した。

・トイレ休憩時間の変更について。

現行のプログラムでは、一時間半ある教室の1時間終了時点でトイレ休憩の時間を設けている。しかし、プール環境によってトイレに行く感覚が短くなること（実際に、休憩時間前にトイレに行く対象者が多い）を考慮すると、トイレ休憩の時間を早める必要がある。→プログラムの45分終了時点でトイレ休憩を設けることを確認した。

⑤平成16年11月20日

全体分析

・グループ別課題の昇進基準について。

現行では、グループ別課題の昇進の基準が曖昧であった。対象者や保護者に目標を持ってもらう意味でも、昇進の基準を明確にする必要がある。→基準をペンギンからイルカⅡの昇進は、顔付けができる、バタ足で10m泳げることを基準とした。イルカⅡからイルカⅠは、クロールで15m泳げることを昇進基準とした。

⑥平成16年12月18日

全体分析

・ボールプールでの安全管理について

赤台（水位を調節するための台）の一段と二段に部分の境目にスタッフを配置したことから、危ない場面は無かった。しかし、コースロープを潜ろうとした対象者がいた。→次回からは、コースロープの境にもスタッフを配置することで危険を回避することを確認した。

## J. 平成 16 年度 実践記録 (第 4 期)

### 1) プログラム (資料参照)

『グループ (個別) 活動の課題設定』を目標とした。プログラムの流れとして準備体操、自由遊び、サーキット、平泳ぎの手の練習、グループ活動、水中ダンスの順で行った。

### 2) プログラムの目標

- ・準備体操

平成 16 年度第 1 期と同じとした。

- ・自由遊び

平成 16 年度第 1 期と同じとした。

- ・サーキット

平成 16 年度第 1 期と同じとした。

- ・平泳ぎの手の練習

手の平を外に向ける、腕を左右に大きく広げる、胸の前で手を合わせる、腕を前に伸ばすという左右対象の動きの習得を目標とした。

- ・グループ・個別活動

ペンギングループは平成 16 年度第 3 期と同じとした。加えて、恐怖心の除去、浮く姿勢作りを目標としたロングビート板に乗っての背浮きを行った。イルカグループは 3 グループとも平成 16 年度第 3 期と同じとした。1 グループはコースを移動して活動を行ったため環境の変化に対応することを目標に加えた。

- ・水中ダンス

平成 16 年度第 1 期と同じとした。

### 3) 評価

平成 16 年度第 1 期と同じとした (資料参照)。

### 4) 実践記録

温水プールの水温は  $30.3 \pm 0.3^{\circ}\text{C}$  であった。参加した対象者の延べ人数は 44 人、スタッフの延べ人数は 116 人であった。以下対象者毎の記録を示した。個々の実践記録を以下に示した。

#### ①平成 17 年 1 月 15 日

##### 個別分析

A 児: 水中ダンスをとっても激しく踊っていた。

B 児: スタッフの指示に対して、良い悪いはさ

まぎまであるが反応を示すようになった。

C 児: 平泳ぎの手の練習の声かけを「アンパンマン」とアレンジして練習していた。

D 児: プログラムのマイナーチェンジに対して、パニックを起こさず、対応できるようになった。

E 児: 「疲れた」と連続して言っていた。→ 対象者が少ないときは運動量が多過ぎないように注意が必要であることを確認した。

F 児: 昇進したグループにも対応できていた。

G 児: クロールの泳力はある。今後は、息継ぎを習得することによって、長い距離が泳げるようにする。

H 児: スタッフとコミュニケーションが取れるようになった。

I 児: 対象者の数が少ないこともあり、プログラムの後半は疲れてしまった。

#### ②平成 17 年 2 月 12 日

##### 個別分析

A 児: 自由遊びの時に、補助なしで滑り台を滑ることができ、サーキットでも滑ることができた。

B 児: 普段より落ち着きがなく、参加できないプログラムや持続性がない場面があった。

C 児: 以前と比較して、常同行動が減った。

D 児: スタッフと目を合わせることができた。

E 児: 他児が泳いでいる姿に拍手していた。

#### ③平成 17 年 2 月 26 日

##### 個別分析

A 児: 課題に対して、持続的に取り組むことができるようになった。

B 児: 準備体操が左右反対になっている。

C 児: 対象者が多いとプログラムに集中して取り組むことができない。

D 児: スタッフの指導に対して、すぐに修正することができていた。

E 児: 苦手な課題に対して、取り組まない。→ 得意な課題から不得意な課題へとシフトさせていくことを確認した。

F 児: 指導をするスタッフを変えても、パニッ

クを起こすことなく適応できていた。

G児：サーキットのボールに対して、ボールを目で追うなどの反応を示すようになった。

H児：以前のように、寒さを訴えなくなった。

④平成17年3月12日

個別分析

A児：スタッフに対して、「内緒だよ」と言って話をしていた。

B児：プログラムの中にやる課題、やらない課題がはっきりしている。→やらない課題に対するアプローチが必要である。

C児：着替えにすごく時間がかかった。

D児：ヘリコプターが飛んでいたのも、すごく興奮していた。

E児：脈拍数のチェックのとき(三回とも)に、保護者が教えた次の数を言っていた。

F児：プログラムに慣れてしまい悪ふざけをすることが多い。→課題のマイナーチェンジが必要である。

G児：鼻を摘むことなしで、潜ることができた。

H児：できる課題は多くなったが、顔付けはできていない。→水に対する恐怖感を取り除く必要がある。

I児：他児の行動が気になり、スタッフに「〇〇くんは、トイレに行ったのですか?」と確認した。

⑤平成17年3月26日

個別分析

A児：久しぶりの参加であったため、更衣室に入るまでに時間を有したが、プログラムには問題なく参加できていた。

B児：水の泡が気になっていた。

C児：これまでは、父親との距離が近かったが、今回はスタッフと課題に取り組むことができた。

D児：前回の欠席したことをスタッフに「休んでごめんなさい」と謝ることができていた。

E児：平泳ぎの手の練習の時に、自ら息継ぎの練習をしていた。

F児：着替えの補助スタッフに対して、「恥ずか

しいから、こっち見ないで」と言った。

⑥平成17年1月15日

全体分析

・プール環境における防寒対策について。

防寒対策として、プールの送風を停止し、ある程度の効果はあった。しかしながら、まだ寒さを訴える対象者がいる。さらなる、防寒対策が必要であるが、具体的な対策は今後の課題である。

⑦平成17年2月12日

全体分析

・対象者のトイレ利用の仕方について。

プールには、トイレが男女とも一個ずつしかないため、休憩時に混雑してします。特に、女性用トイレは混雑してしまうため、男性用トイレを女児が使えば混雑が解消できるのでは?との意見が出た。しかし、女児が男性用トイレを使用することは社会的におかしい事のため、これまで通り休憩時間を対象者が揃うまで待つことを確認した。

・対象者に対する声掛けの仕方についての確認。

今回のように、対象者の数がスタッフ数を回っているときに、対象者に対して声かけが多くなってしまいう傾向がある。そのため、対象者がパニックを起こしやすい。→必ずしも対象者に関わる事のないスタッフも必要であることを確認した。

⑧平成17年2月26日

全体分析

・グループ別課題における練習スペースについて。

イルカⅡのグループ練習は、1コース分のスペースで行っている。現在は、4人がイルカⅡのグループで練習しているためにスペースが狭いとの意見があった。しかしながら、他のグループ練習のスペースの狭いためにイルカⅡだけスペースを広げることは難しいことを確認した。そのため、指導方法を改善することによって危険を回避できることを確認した。